

釧路市地域公共交通利便増進実施計画 新旧対照表

変 更 前

(表紙)

釧路市地域公共交通利便増進実施計画

令和元年9月
令和2年9月変更
令和3年9月変更
令和6年9月変更

4. 利便増進実施計画で取り組む事業の内容

表.方針1に対する地域公共交通利便増進事業及び事業主体(1/2)

今後の取組	施策項目	事業内容	実施主体	
①わかりやすく、 効率よく拠点間 を連絡するバス 路線網への再編	路線再編	STEP1	イオン鶴野線	阿寒バス（株）
		鶴野ニュータウン線	阿寒バス（株）	
		イオンリフレ線（鶴野経由）	阿寒バス（株）	
		山花リフレ線（鶴野経由）	阿寒バス（株）	
		イオンリフレ線（大楽毛経由）	阿寒バス（株）	
		②イオンリフレ線（大楽毛経由）	阿寒バス（株）	
		イオン高専線	阿寒バス（株）	
		白音線	くしろバス（株）	
		昭和線(直通)	阿寒バス（株）	
		STEP2	鳥取北・昭和地区循環バス(支線)	くしろバス（株）
		昭和線(直通)	くしろバス（株）	
		昭和線(支線)	阿寒バス（株）	
		阿寒本町線（山花経由）(支線)	阿寒バス（株）	
		阿寒本町線（山花経由）(直通)	阿寒バス（株）	
		桂恋三津浦線	まりも交通（株）	
		大楽毛線	阿寒バス（株）	
		幌呂線	阿寒バス（株）	
		現状維持	たくぼく循環線	くしろバス（株）
	昭和線（系統の2）		くしろバス（株）	
	鶴ヶ岱線		くしろバス（株）	
	若草団地線		くしろバス（株）	
	白樺線（湖陵高校）		くしろバス（株）	
	白樺春採ショッピングセンター線		くしろバス（株）	
	白樺線（千代の浦）		くしろバス（株）	
文苑公住線	くしろバス（株）			
新富士新野線	くしろバス（株）			
白糠線	くしろバス（株）			

変 更 後

(表紙)

釧路市地域公共交通利便増進実施計画

令和元年9月
令和2年9月変更
令和3年9月変更
令和6年9月変更
令和7年9月変更

(10頁) 4. 利便増進実施計画で取り組む事業の内容

表.方針1に対する地域公共交通利便増進事業及び事業主体(1/2)

今後の取組	施策項目		事業内容	実施主体
①わかりやすく、 効率よく拠点間 を連絡するバス 路線網への再編	路線再編	STEP1	イオン鶴野線	阿寒バス（株）
			鶴野ニュータウン線	阿寒バス（株）
			イオンリフレ線（鶴野経由）	阿寒バス（株）
			山花リフレ線（鶴野経由）	阿寒バス（株）
			イオンリフレ線（大楽毛経由）	阿寒バス（株）
			②イオンリフレ線（大楽毛経由）	阿寒バス（株）
			イオン高専線	阿寒バス（株）
			白音線	くしろバス（株）
		昭和線(直通)	阿寒バス（株）	
		STEP2	鳥取北・昭和地区循環バス(支線)	くしろバス（株）
			昭和線(直通)	くしろバス（株）
			昭和線(支線)	阿寒バス（株）
			阿寒本町線（山花経由）(支線)	阿寒バス（株）
			阿寒本町線（山花経由）(直通)	阿寒バス（株）
			桂恋三津浦線	まりも交通（株）
			大楽毛線	阿寒バス（株）
			幌呂線	阿寒バス（株）
		現状維持	たくぼく循環線	くしろバス（株）
	昭和線（系統の2）		くしろバス（株）	
	鶴ヶ岱線		くしろバス（株）	
	若草団地線		くしろバス（株）	
	白樺線（湖陵高校）		くしろバス（株）	
	白樺春採ショッピングセンター線		くしろバス（株）	
	白樺線（千代の浦）		くしろバス（株）	
	ジョイフルタウン線		くしろバス（株）	
	文苑公住線		くしろバス（株）	
	新富士新野線		くしろバス（株）	
	白糠線		くしろバス（株）	

変 更 前

表.方針 1 に対する地域公共交通利便増進事業及び事業主体 (2/2)

今後の取組	施策項目	事業内容	実施主体
①わかりやすく、 効率よく拠点間 を連絡するバス 路線網への再編	現状維持	大楽毛線	くしろバス (株)
		附属スクール線	くしろバス (株)
		南北線	くしろバス (株)
		浄水場線	くしろバス (株)
		晴海線	くしろバス (株)
		武佐線	くしろバス (株)
		イオン美原線	くしろバス (株)
		豊美線	くしろバス (株)
		美原線	くしろバス (株)
		イオン昭和線	くしろバス (株)
		イオン新富士線	くしろバス (株)
		イオン線	くしろバス (株)
		イオン釧路線	くしろバス (株)
		高専線	くしろバス (株)
		たんちょう線	くしろバス (株)
		毘沙門線	くしろバス (株)
		別保線	くしろバス (株)
		遠矢線	くしろバス (株)
		厚岸釧路線	くしろバス (株)
		阿寒線	阿寒バス (株)
		鶴居線	阿寒バス (株)
		鶴居スクール線	阿寒バス (株)
		釧路羅臼線	阿寒バス (株)
		阿寒本町線 (大楽毛経由)	阿寒バス (株)
		釧路標津線	阿寒バス (株)
②乗換拠点の機 能充実	乗換拠点の整備	イオン昭和店の待合環境の整備	釧路市 民間事業者
		スーパーアークスの建替に合わせたバス乗降場、待合環境の整備	釧路市 民間事業者
③市内拠点等を 結ぶ地域や利用 者ニーズに応じ た効果的なバス 運行の実施	市民の主要な目的 地へのバス路線の 配置 (経路変更)	鳥取北・昭和地区循環バス(支線)	くしろバス (株)
		桂恋三津浦線	まりも交通 (株)
	住宅地と乗換拠点 をつなぐバス路線 の配置 (経路変更)	イオン高専線	阿寒バス (株)

変 更 後

(11頁)

表.方針 1 に対する地域公共交通利便増進事業及び事業主体 (2/2)

今後の取組	施策項目	事業内容	実施主体
①わかりやすく、 効率よく拠点間 を連絡するバス 路線網への再編	現状維持	大楽毛線	くしろバス (株)
		附属スクール線	くしろバス (株)
		南北線	くしろバス (株)
		浄水場線	くしろバス (株)
		晴海線	くしろバス (株)
		武佐線	くしろバス (株)
		イオン美原線	くしろバス (株)
		豊美線	くしろバス(株)
		美原線	くしろバス (株)
		イオン昭和線	くしろバス (株)
		イオン新富士線	くしろバス (株)
		イオン線	くしろバス (株)
		イオン釧路線	くしろバス (株)
		高専線	くしろバス (株)
		たんちょう線	くしろバス (株)
		毘沙門線	くしろバス (株)
		別保線	くしろバス (株)
		遠矢線	くしろバス (株)
		厚岸釧路線	くしろバス (株)
		阿寒線	阿寒バス (株)
		鶴居線	阿寒バス (株)
		鶴居スクール線	阿寒バス (株)
		釧路羅臼線	阿寒バス (株)
		阿寒本町線 (大楽毛経由)	阿寒バス (株)
		釧路標津線	阿寒バス (株)
②乗換拠点の機 能充実	乗換拠点の整備	イオン昭和店の待合環境の整備	釧路市 民間事業者
		スーパーアークスの建替に合わせたバス乗降場、待合環境の整備	釧路市 民間事業者
③市内拠点等を 結ぶ地域や利用 者ニーズに応じ た効果的なバス 運行の実施	市民の主要な目的 地へのバス路線の 配置 (経路変更)	鳥取北・昭和地区循環バス(支線)	くしろバス (株)
		桂恋三津浦線	まりも交通 (株)
	住宅地と乗換拠点 をつなぐバス路線 の配置 (経路変更)	イオン高専線	阿寒バス (株)

変 更 前

(13頁) 3. 路線再編概要

STEP 1

STEP 1 における路線再編の対象は以下のとおりであり、イオン昭和店を乗換拠点として、支線系路線と在来の路線バス（幹線系路線）によるゾーンバス化を実施する。

また、幹線系路線である昭和線（阿寒バス）のイオン昭和店への乗り入れ及び増便、白糖線（系統の2）の音別駅構内への乗り入れを行う。

令和6年10月1日からは、白糖線（系統の2）を廃止し、白糖線の増便及び白音線の新設により音別駅構内への乗り入れを継続する

白音線

① 運行概要

運行のねらい	【再編の方向性】 釧路地域と音別地域を結ぶ幹線路線として、音別駅構内へ乗り入れ、鉄道や音別線（市町村有償旅客運送）との乗り換えしやすさを高める。 令和6年10月1日からは、白糖線（系統の2）を廃止し、白糖線の増便及び白音線の新設により音別駅構内への乗り入れを継続する。
起点	白糖駅前
主な経由地	古瀬
終点	音別駅前
運行距離	白糖駅前→古瀬→音別駅前：14.9 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	12 箇所
運賃	対距離制タイプ

変 更 後

(13頁) 3. 路線再編概要

STEP 1

STEP 1 における路線再編の対象は以下のとおりであり、イオン昭和店を乗換拠点として、支線系路線と在来の路線バス（幹線系路線）によるゾーンバス化を実施する。

また、幹線系路線である昭和線（阿寒バス）のイオン昭和店への乗り入れ及び増便、白糖線（系統の2）の音別駅構内への乗り入れを行う。

令和6年10月1日からは、白糖線（系統の2）を廃止し、白糖線の増便及び白音線の新設により音別駅構内への乗り入れを継続する。令和7年10月1日からは、白音線を廃止し、代替路線として音別地区コミュニティバスを白糖駅まで延長し、音別駅構内への乗り入れを継続する。

(39頁) 白音線

① 運行概要

運行のねらい	【再編の方向性】 釧路地域と音別地域を結ぶ幹線路線として、音別駅構内へ乗り入れ、鉄道や音別線（市町村有償旅客運送）との乗り換えしやすさを高める。 令和6年10月1日からは、白糖線（系統の2）を廃止し、白糖線の増便及び白音線の新設により音別駅構内への乗り入れを継続する。 令和7年10月1日からは、白音線を廃止し、代替路線として音別地区コミュニティバスを白糖駅まで延長し、音別駅構内への乗り入れを継続する。
起点	白糖駅前
主な経由地	古瀬
終点	音別駅前
運行距離	白糖駅前→古瀬→音別駅前：14.9 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	12 箇所
運賃	対距離制タイプ

変 更 前

白音線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	-
利用目標（令和 8 年度）	2,440 人

運行経費	7,752 千円
運賃収入	946 千円
補助金	国 - 千円
	道 - 千円
釧路市	6,806 千円
事業者等	- 千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■利用目標及び事業費の考え方

・バス事業者による資料を基に算出

④時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	2	-
	復	3	-
	土曜日	合計	
	往	-	-
	復	-	-
	休日	合計	
	往	-	-
	復	-	-

変 更 後

(39頁) 白音線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	- 人
利用目標（令和 8 年度）	- 人

運行経費	- 千円
運賃収入	- 千円
補助金	国 - 千円
	道 - 千円
釧路市	- 千円
事業者等	- 千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■利用目標及び事業費の考え方

・バス事業者による資料を基に算出

④時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	-	-
	復	-	-
	土曜日	合計	
	往	-	-
	復	-	-
	休日	合計	
	往	-	-
	復	-	-

⇒令和 7 年 9 月までで運行を終了し、代替路線として令和 7 年 10 月から音別地区コミュニティバスを白糠駅まで延長する。

変 更 前

鳥取北・昭和地区循環バス（くしろバス・支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 昭和線（釧路駅発着）は運行距離が長く、特に鳥取大通2丁目（スーパーアークス）以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 立地適正化計画の拠点として都市機能の強化を図り、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークを強化するとともに、将来に渡って維持・活性化を図るため、スーパーアークスを乗換拠点として、イオン昭和店、コア鳥取など拠点間を結ぶ循環線を生活交通（支線）と位置付け、利用者の利便性と運行の効率化を図る。
起点	スーパーアークス鳥取大通店
主な経由地	イオン昭和店、コア鳥取
終点	スーパーアークス鳥取大通店
運行距離	スーパーアークス鳥取大通店→イオン昭和店→コア鳥取→スーパーアークス鳥取大通店：10.7 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	32 箇所
運賃	均一運賃タイプ

再編後

路線延長
10.7 km



変 更 後

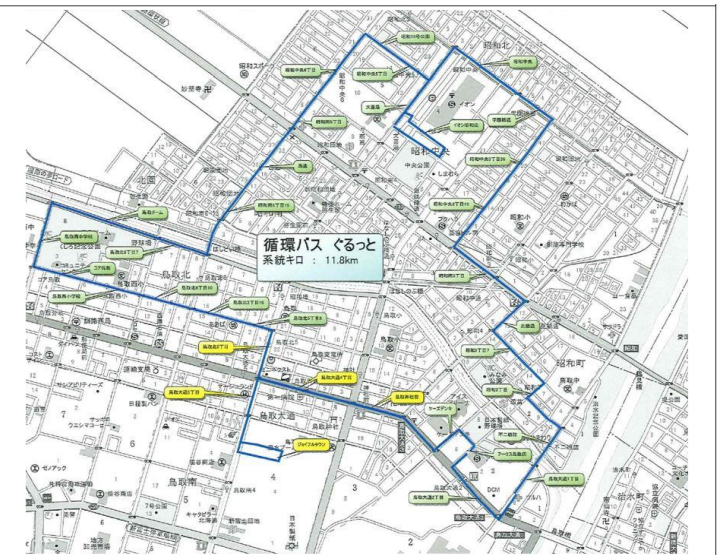
(43頁) 鳥取北・昭和地区循環バス（くしろバス・支線）

①運行概要

運行のねらい	【現状・課題】 昭和線（釧路駅発着）は運行距離が長く、特に鳥取大通2丁目（スーパーアークス）以西の区間では利用者も少なくなるため非効率な運行が課題。 【再編の方向性】 立地適正化計画の拠点として都市機能の強化を図り、利用ニーズに見合った運行とコンパクト・プラス・ネットワークを強化するとともに、将来に渡って維持・活性化を図るため、スーパーアークスを乗換拠点として、イオン昭和店、コア鳥取など拠点間を結ぶ循環線を生活交通（支線）と位置付け、利用者の利便性と運行の効率化を図る。
起点	スーパーアークス鳥取大通店
主な経由地	イオン昭和店、コア鳥取
終点	スーパーアークス鳥取大通店
運行距離	スーパーアークス鳥取大通店→イオン昭和店→コア鳥取→スーパーアークス鳥取大通店：11.8 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	32 箇所
運賃	均一運賃タイプ

再編後

路線延長
11.8 km



変 更 前

(新設)

変 更 後

(90頁) ジョイフルタウン線

ジョイフルタウン線

② 運行概要

起点	釧路駅前
主な経由地	喜多町
終点	ジョイフルタウン
運行距離	釧路駅前→喜多町→ジョイフルタウン：5.0 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	9 箇所
運賃	対距離制タイプ

③ 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）		－ 人	
利用目標（令和 8 年度）		13,888 人	
運行経費		3,993 千円	■ 利用目標及び事業費の考え方 ・バス事業者による資料を基に算出
運賃収入		4,432 千円	
補助金	国	－ 千円	
	道	－ 千円	
釧路市		－ 千円	
事業者等		－ 千円	
※補助金想定額は市単独補助を想定			

変更前

(新設)

変更後

③系統運行図

現況

路線延長
5.0 km



④時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	1	1
	復	1	1
	土曜日	合計	
	往	2	1
	復	2	1
	休日	合計	
	往	2	1
	復	2	1

⑤運賃

		2	3	往
		2	1	
復	1			
	3			
ジョイフルタウン	鳥取南	喜多町	樽頭入口	銅路駅前
				210
		210	210	210
			210	280
	160	240	240	300

※小学生は半額

変 更 前

新富士新野線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	30,182 人
利用目標（令和 8 年度）	7,618 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		3,417 千円
運賃収入		2,078 千円
補助金	国	－千円
	道	－千円
釧路市		1,339 千円
事業者等		－千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	1	2
		復	1	4
	土曜日		合計	
		往	-	-
		復	-	-
	休日		合計	
		往	-	-
		復	-	-

変 更 後

(98頁) 新富士新野線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	30,182 人
利用目標（令和 8 年度）	- 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		一千円
運賃収入		一千円
補助金	国	一千円
	道	一千円
釧路市		一千円
事業者等		一千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	-	2
		復	-	4
	土曜日		合計	
		往	-	-
		復	-	-
	休日		合計	
		往	-	-
		復	-	-

⇒利用者数の減少や他系統での代替が可能であることを踏まえ、令和 7 年 9 月までで運行を終了する。

変 更 前

大楽毛線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	28,369 人
利用目標（令和 8 年度）	26,346 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		6,004 千円
運賃収入		4,367 千円
補助金	国	－千円
	道	－千円
釧路市		1,637 千円
事業者等		－千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	2	2
	復	1	1
	土曜日	合計	
	往	3	4
	復	2	3
	休日	合計	
	往	3	4
	復	2	3

変 更 後

(102頁) 大楽毛線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	28,369 人
利用目標（令和 8 年度）	35,963 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		8,196 千円
運賃収入		5,813 千円
補助金	国	－千円
	道	－千円
釧路市		2,383 千円
事業者等		－千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	3	2
	復	2	1
	土曜日	合計	
	往	3	4
	復	2	3
	休日	合計	
	往	3	4
	復	2	3

変 更 前

晴海線

①運行概要

起点	釧路駅前
主な経由地	中央通
終点	白樺台
運行距離	釧路駅前→中央通→白樺台：10.6～10.9 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	33 箇所
運賃	対距離制タイプ

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	232,518 人
利用目標（令和 8 年度）	199,778 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		37,520 千円
運賃収入		33,029 千円
補助金	国	－ 千円
	道	1,122 千円
釧路市		3,369 千円
事業者等		－ 千円

※補助金想定額は広域生活交通を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

変 更 後

(118頁) 晴海線

①運行概要

起点	釧路駅前
主な経由地	中央通
終点	白樺台
運行距離	釧路駅前→中央通→白樺台：10.6～10.9 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	32 箇所
運賃	対距離制タイプ

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	232,518 人
利用目標（令和 8 年度）	197,562 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		37,101 千円
運賃収入		32,691 千円
補助金	国	－ 千円
	道	798 千円
釧路市		3,612 千円
事業者等		－ 千円

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

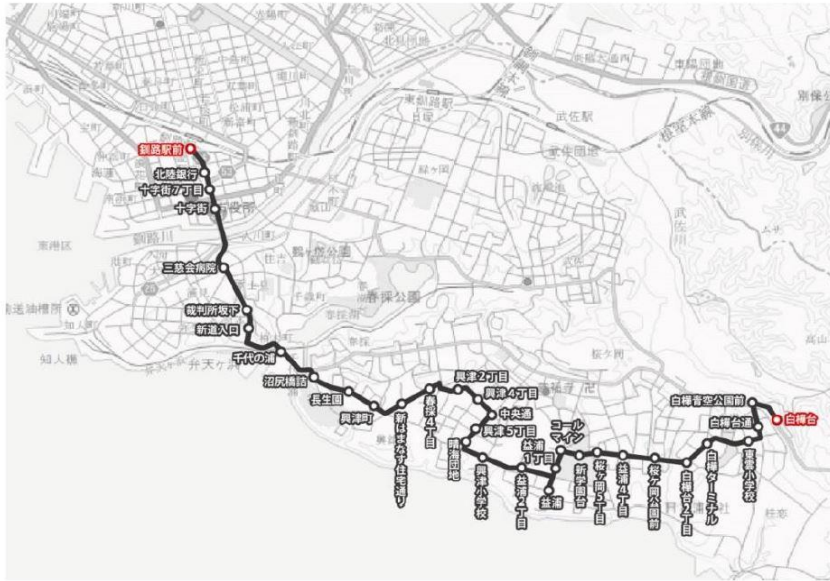
変更前

晴海線

③系統運行図

現況

路線延長
10.9 km



④時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	17	21
	復	18	22
	土曜日	合計	
	往	10	10
	復	9	10
	休日	合計	
	往	10	10
	復	9	10

変更後

(118頁) 晴海線

③系統運行図

現況

路線延長
10.6 km



④時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	17	21
	復	18	22
	土曜日	合計	
	往	9	10
	復	9	10
	休日	合計	
	往	9	10
	復	9	10

変 更 前

イオン美原線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	32,922 人
利用目標（令和 8 年度）	38,326 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		15,277 千円
運賃収入		6,268 千円
補助金	国	2,313 千円
	道	2,313 千円
釧路市		2,684 千円
事業者等		1,699 千円

※補助金想定額は地域間幹線系統を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	8	8
		復	8	7
	土曜日		合計	
		往	6	4
		復	6	4
	休日		合計	
		往	6	4
		復	6	4

変 更 後

(126頁) イオン美原線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	32,922 人
利用目標（令和 8 年度）	36,580 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		14,581 千円
運賃収入		6,017 千円
補助金	国	1,198 千円
	道	1,198 千円
釧路市		3,777 千円
事業者等		2,391 千円

※補助金想定額は地域間幹線系統を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	7	8
		復	8	7
	土曜日		合計	
		往	6	4
		復	6	4
	休日		合計	
		往	6	4
		復	6	4

変 更 前

豊美線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	54,106 人
利用目標（令和 8 年度）	36,906 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		11,080 千円
運賃収入		6,079 千円
補助金	国	1,277 千円
	道	1,277 千円
釧路市		1,378 千円
事業者等		1,069 千円

※補助金想定額は地域間幹線系統を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度半
口当たり運行経費単価実績を再編後の計
画運行半口に乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成
30 年に実施したアンケート調査におけ
る再編事業による利用意向を踏まえた令
和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	6	10
		復	6	10
	土曜日		合計	
		往	7	8
		復	7	8
	休日		合計	
		往	7	8
		復	7	8

変 更 後

(128頁) 豊美線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	54,106 人
利用目標（令和 8 年度）	— 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		— 千円
運賃収入		— 千円
補助金	国	— 千円
	道	— 千円
釧路市		— 千円
事業者等		— 千円

※補助金想定額は地域間幹線系統を想定

■運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・運行経費は、バス事業者の平成 30 年度半
口当たり運行経費単価実績を再編後の計
画運行半口に乘じて算出
- ・運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成
30 年に実施したアンケート調査におけ
る再編事業による利用意向を踏まえた令
和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	—	10
		復	—	10
	土曜日		合計	
		往	—	8
		復	—	8
	休日		合計	
		往	—	8
		復	—	8

⇒利用者数の減少や他系統での代替が可能であることを踏まえ、令和 7 年 9 月までで運行を終了する。

変 更 前

イオン昭和線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	247,237 人
利用目標（令和 8 年度）	192,512 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		28,738 千円
運賃収入		31,081 千円
補助金	国	－千円
	道	－千円
釧路市		－千円
事業者等		－千円

■ 運行経費及び運賃収入算定の考え方

・ 運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出

・ 運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	14	19
	復	14	18
	土曜日	合計	
	往	14	18
	復	14	17
	休日	合計	
	往	14	18
	復	14	17

変 更 後

(134頁) イオン昭和線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	247,237 人
利用目標（令和 8 年度）	155,969 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		23,283 千円
運賃収入		25,586 千円
補助金	国	－千円
	道	－千円
釧路市		－千円
事業者等		－千円

■ 運行経費及び運賃収入算定の考え方

・ 運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出

・ 運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	13	19
	復	13	18
	土曜日	合計	
	往	8	18
	復	8	17
	休日	合計	
	往	14	18
	復	14	17

変 更 前

イオン新富士線

① 運行概要

起点	釧路駅
主な経由地	新富士 2 丁目
終点	イオン昭和店
運行距離	釧路駅→新富士 2 丁目→イオン昭和店：8.7 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行日	通年
停留所数	26 箇所
運賃	対距離制タイプ

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	48,244 人
利用目標（令和 8 年度）	55,960 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		10,889 千円
運賃収入		8,290 千円
補助金	国	－ 千円
	道	－ 千円
釧路市		2,599 千円
事業者等		－ 千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■ 運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・ 運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乗じて算出
- ・ 運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

変 更 後

(136頁) イオン新富士線

① 運行概要

起点	釧路駅
主な経由地	新富士 2 丁目
終点	イオン昭和店
運行距離	釧路駅→新富士 2 丁目→イオン昭和店：8.5 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
運行日	通年
停留所数	26 箇所
運賃	対距離制タイプ

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	48,244 人
利用目標（令和 8 年度）	66,543 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費		12,948 千円
運賃収入		9,754 千円
補助金	国	－千円
	道	－千円
釧路市		3,194 千円
事業者等		－千円

※補助金想定額は市単独補助を想定

■ 運行経費及び運賃収入算定の考え方

- ・ 運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乗じて算出
- ・ 運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

変更前

イオン新富士線

③系統運行図

現況

路線延長
8.7 km



④時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	4	5
	復	6	4
	土曜日	合計	
	往	6	5
	復	6	5
	休日	合計	
	往	6	5
	復	6	5

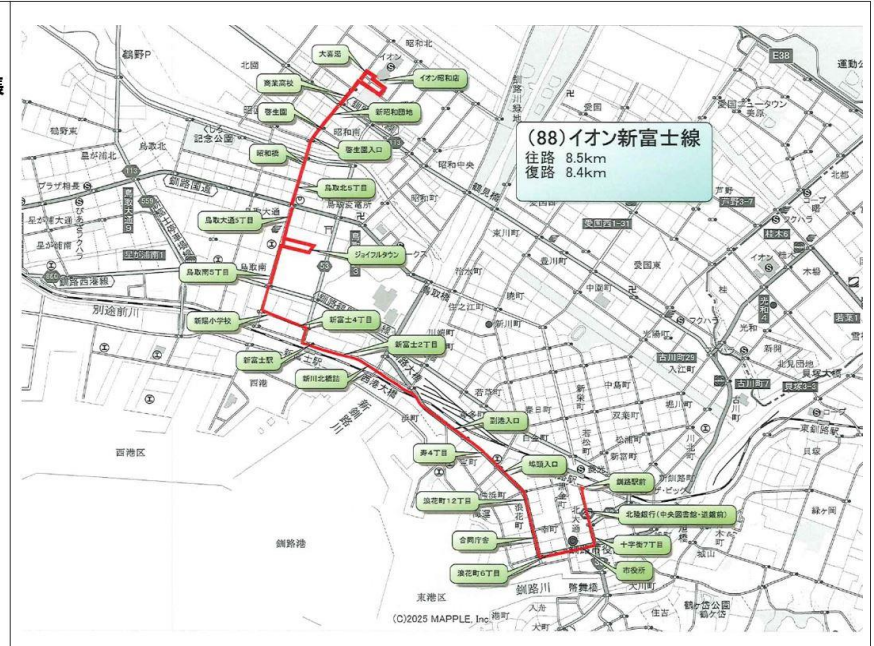
変更後

(136頁) イオン新富士線

③系統運行図

現況

路線延長
8.5 km



④時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等		運行回数	
		再編後	現行
通年	平日	合計	
	往	7	5
	復	8	4
	土曜日	合計	
	往	4	5
	復	4	5
	休日	合計	
	往	4	5
	復	4	5

変 更 前

遠矢線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	82,159 人
利用目標（令和 8 年度）	82,455 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費	35,951 千円
運賃収入	17,542 千円
補助金	国 4,825 千円
	道 4,825 千円
釧路市	2,099 千円
事業者等	6,660 千円

※補助金想定額は地域間幹線系統を想定

■ 運行経費及び運賃収入算定の考え方

・ 運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出

・ 運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	8	8
		復	9	9
	土曜日		合計	
		往	5	5
		復	6	6
	休日		合計	
		往	5	5
		復	6	6

変 更 後

(152頁) 遠矢線

② 利用目標及び事業費と調達方法

利用者数（平成 30 年度）	82,159 人
利用目標（令和 8 年度）	40,362 人

※利用者数は、バス事業者による平成 30 年度の路線・系統別輸送人員の集計

※利用目標は、平成 30 年度利用者数（路線再編の場合は内区間利用者数）に現行の利用者をベースとした上、平成 30 年度に実施した利用者アンケートによる乗り換え影響率、利用促進策による増加率を乗じた値

運行経費	17,598 千円
運賃収入	9,637 千円
補助金	国 1,426 千円
	道 1,426 千円
釧路市	1,225 千円
事業者等	3,885 千円

※補助金想定額は地域間幹線系統を想定

■ 運行経費及び運賃収入算定の考え方

・ 運行経費は、バス事業者の平成 30 年度キロ当たり運行経費単価実績を再編後の計画運行キロに乘じて算出

・ 運賃収入は、平成 30 年度の実績に平成 30 年に実施したアンケート調査における再編事業による利用意向を踏まえた令和 8 年度利用者数の変化率を乗じた値

④ 時間帯ごとの運行回数

期間・曜日等			運行回数	
			再編後	現行
通年	平日		合計	
		往	5	8
		復	5	9
	土曜日		合計	
		往	1	5
		復	1	6
	休日		合計	
		往	1	5
		復	1	6

変更前

厚岸釧路線

①運行概要

起点	くしろバス本社
主な経由地	別保駅
終点	子野日公園
運行距離	くしろバス本社→別保駅→子野日公園：66.3 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	80 箇所
運賃	対距離制タイプ

③系統運行図

現況

路線延長
66.3 km



変更後

(154頁) 厚岸釧路線

①運行概要

起点	くしろバス本社
主な経由地	別保駅
終点	子野日公園
運行距離	くしろバス本社→別保駅→子野日公園：65.6 km
運行事業者	くしろバス株式会社
事業の種類	一般乗合旅客運送
運送の態様	路線定期運行
停留所数	80 箇所
運賃	対距離制タイプ

③系統運行図

現況

路線延長
65.6 km



変 更 前

変 更 後

表.単年分の事業実施に必要な資金の額・調達の方法 【路線再編・路線新設】

	路線名		運行経費 (千円)	運賃収入 (千円)	国 (千円)	北海道 (千円)	釧路市 (千円)	事業者等 (千円)	活用を規定する 補助制度
STEP1	鶴野ニュータウン線	直通	969	521			448		市単独
	イオン鶴野線	支線	1,063	699	182		182		地域内フィーダー
	山花リフレ線（鶴野経由）	直通	786	371			415		市単独
	イオンレフレ線（鶴野経由）	支線	4,427	1,303	1,562		1,562		地域内フィーダー
	イオンリフレ線（大楽毛経由） ②イオンリフレ線（大楽毛経由）	支線	12,330	3,627	4,194		4,509		地域内フィーダー
	イオン高専線		3,992	2,155	918		919		地域内フィーダー
	白音線		7,752	946			6,806		市単独
	昭和線（阿寒バス）	直通	8,590	8,064			526		市単独
	小計		39,909	17,686	6,856		15,367		
STEP2	昭和線（くしろバス）	直通	5,073	3,087			1,986		市単独
	鳥取北・昭和地区循環バス	支線	5,138	3,721	708		709		地域内フィーダー
	昭和線（阿寒バス）	支線	1,808	1,487	160		161		地域内フィーダー
	阿寒本町線（山花経由）	直通	7,732	2,465		526	4,741		市町村生活
		支線	6,004	2,002	2,001		2,001		地域内フィーダー
	大楽毛線（阿寒バス）		14,685	12,958			1727		市単独
	幌呂線								
	桂恋三津浦線（デマンド交通）		1,899	450	724		725		地域内フィーダー
小計			42,339	26,170	3,593	526	12,050		
生活交通	阿寒仁々志別線（デマンド交通）		3,575	864	1,355		1,356		地域内フィーダー
	音別線（デマンド交通）		4,638	2,400	1,119		1,119		地域内フィーダー
小計			8,213	3,264	2,474		2,475		

※補助金については今後申請予定額のため、額が変動する場合もあり得る。

(178頁)

表.単年分の事業実施に必要な資金の額・調達の方法 【路線再編・路線新設】

	路線名		運行経費 (千円)	運賃収入 (千円)	国 (千円)	北海道 (千円)	釧路市 (千円)	事業者等 (千円)	活用を規定する 補助制度
STEP1	鶴野ニュータウン線	直通	969	521			448		市単独
	イオン鶴野線	支線	1,063	699	182		182		地域内フィーダー
	山花リフレ線（鶴野経由）	直通	786	371			415		市単独
	イオンレフレ線（鶴野経由）	支線	4,427	1,303	1,562		1,562		地域内フィーダー
	イオンリフレ線（大楽毛経由） ②イオンリフレ線（大楽毛経由）	支線	12,330	3,627	4,194		4,509		地域内フィーダー
	イオン高専線		3,992	2,155	918		919		地域内フィーダー
	白音線				白音線の数値のみ削除				
	昭和線（阿寒バス）	直通	8,590	8,064			526		市単独
	小計		39,909	17,686	6,856		15,367		
STEP2	昭和線（くしろバス）	直通	5,073	3,087			1,986		市単独
	鳥取北・昭和地区循環バス	支線	5,138	3,721	708		709		地域内フィーダー
	昭和線（阿寒バス）	支線	1,808	1,487	160		161		地域内フィーダー
	阿寒本町線（山花経由）	直通	7,732	2,465		526	4,741		市町村生活
		支線	6,004	2,002	2,001		2,001		地域内フィーダー
	大楽毛線（阿寒バス）		14,685	12,958			1727		市単独
	幌呂線								
	桂恋三津浦線（デマンド交通）		1,899	450	724		725		地域内フィーダー
小計			42,339	26,170	3,593	526	12,050		
生活交通	阿寒仁々志別線（デマンド交通）		3,575	864	1,355		1,356		地域内フィーダー
	音別線（デマンド交通）		4,638	2,400	1,119		1,119		地域内フィーダー
小計			8,213	3,264	2,474		2,475		

※補助金については今後申請予定額のため、額が変動する場合もあり得る。

変 更 前

表.単年分の事業実施に必要な資金の額・調達の方法 【現状維持路線】

	路線名	運行経費 (千円)	運賃収入 (千円)	国 (千円)	北海道 (千円)	釧路市 (千円)	事業者等 (千円)	活用を規定する 補助制度
現状維持	たくぼく循環線（旭町 SC 系統）	21,399	23,010					
	たくぼく循環線（プラザよねまち系統）	2,290	3,078					
	明輝東高校線	1,008	2,712					
	鶴ヶ岱線（系統の1）	2,563	4,293					
	鶴ヶ岱線（系統の2）	1,102	2,940					
	若草団地線（系統の1）	8,005	5,167			2,838		市単独
	白樺線（湖陵高校）	12,581	9,167			3,414		市単独
	白樺春探ショッピングセンター線	15,945	14,753			1,192		市単独
	白樺線（千代の浦）	47,910	56,433					
	文苑公住線（系統の1）	40,113	40,512					
	文苑公住線（系統の2）	16,543	16,947					
	新富士新野線	3,417	2,078			1,339		市単独
	白樺線（系統の1）	93,814	44,533	9,817	9,817	14,276	15,370	地域間幹線
	大楽毛線（くしろバス）	6,004	4,367			1,637		市単独
	附属スクール線	766	2,766					
	南北線（系統の1）	47,171	21,679	6,000	6,000	9,973	3,519	地域間幹線
	南北線（系統の2）	602	2,165					
	浄水場線	1,198	2,071					
	晴海線	37,520	33,029		1,122	3,369		広域生活
	武佐線（系統の1）	3,074	2,273			801		市単独
	武佐線（系統の2）	13,844	6,826			5,000	2,018	市単独
	イオン美原線	15,277	6,268	2,313	2,313	2,684	1,699	地域間幹線
	豊美線	11,080	6,079	1,277	1,277	1,378	1,069	地域間幹線
	美原線（芦野系統）	10,138	7,206			2,932		市単独
	美原線（大曲系統）	29,952	38,381					
	イオン昭和線	28,738	31,081					
	イオン新富士線	10,889	8,290			2,599		市単独
	イオン線	50,206	52,922					
	イオン釧路線	12,346	19,737					
	高専線（系統の1）	2,442	4,676					
	高専線（系統の2）	2,479	6,797					
	たんちよう線	27,979	13,085	3,615	3,615	6,994	670	地域間幹線
	毘沙門線	1,048	588			460		市単独
	別保線	6,710	3,166		933	2,611		広域生活
	遠矢線	35,951	17,542	4,825	4,825	2,099	6,660	地域間幹線
	厚岸釧路線	55,852	35,955	5,381	5,381	1,347	7,788	地域間幹線
	阿寒線	53,411	43,102	5,154	5,155			地域間幹線
	鶴居線	39,761	21,112	4,274	4,274	4,926	5,175	地域間幹線
	釧路羅臼線	110,405	67,750	21,251	21,251	153		地域間幹線
	阿寒本町線（大楽毛経由）	14,573	4,251			10,322		市単独
	釧路標津線	7,782	5,547			483	1,752	市単独
	布伏内線（デマンド交通）	4,000	170	1,915		1,915		地域内フィーダー
	小計	907,888	694,504	65,822	65,963	84,742	45,720	
	合計	998,349	741,624	78,745	66,489	114,634	45,720	

変 更 後

(179頁)

表.単年分の事業実施に必要な資金の額・調達の方法 【現状維持路線】

	路線名	運行経費 (千円)	運賃収入 (千円)	国 (千円)	北海道 (千円)	釧路市 (千円)	事業者等 (千円)	活用を規定する 補助制度
現状維持	たくぼく循環線（旭町 SC 系統）	21,399	23,010					
	たくぼく循環線（プラザよねまち系統）	2,290	3,078					
	明輝東高校線	1,008	2,712					
	鶴ヶ岱線（系統の1）	2,563	4,293					
	鶴ヶ岱線（系統の2）	1,102	2,940					
	若草団地線（系統の1）	8,005	5,167			2,838		市単独
	白樺線（湖陵高校）	12,581	9,167			3,414		市単独
	白樺春探ショッピングセンター線	15,945	14,753			1,192		市単独
	白樺線（千代の浦）	47,910	56,433					
	ジョイフルタウン線	3,993	4,432					
	文苑公住線（系統の1）	40,113	40,512					
	文苑公住線（系統の2）	16,543	16,947					
	白樺線（ 系統の1 ）	93,814	44,533	9,817	9,817	14,276	15,370	地域間幹線
	大楽毛線（くしろバス）	8,196	5,813			2,383		市単独
	附属スクール線	766	2,766					
	南北線（系統の1）	47,171	21,679	6,000	6,000	9,973	3,519	地域間幹線
	南北線（系統の2）	602	2,165					
	浄水場線	1,198	2,071					
	晴海線	37,101	32,691		798	3,612		広域生活
	武佐線（系統の1）	3,074	2,273			801		市単独
	武佐線（系統の2）	13,844	6,826			5,000	2,018	市単独
	イオン美原線	14,581	6,017	1,198	1,198	3,777	2,391	地域間幹線
	美原線（芦野系統）	10,138	7,206			2,932		市単独
	美原線（大曲系統）	29,952	38,381					
	イオン昭和線	23,283	25,586					
	イオン新富士線	12,948	9,754			3,194		市単独
	イオン線	50,206	52,922					
	イオン釧路線	12,346	19,737					
	高専線（系統の1）	2,442	4,676					
	高専線（系統の2）	2,479	6,797					
	たんちよう線	27,979	13,085	3,615	3,615	6,994	670	地域間幹線
	毘沙門線	1,048	588			460		市単独
	別保線	6,710	3,166		933	2,611		広域生活
	遠矢線	17,598	9,637	1,426	1,426	1,225	3,8885	地域間幹線
	厚岸釧路線	55,852	35,955	5,381	5,381	1,347	7,788	地域間幹線
	阿寒線	53,411	43,102	5,154	5,155			地域間幹線
	鶴居線	39,761	21,112	4,274	4,274	4,926	5,175	地域間幹線
	釧路羅臼線	110,405	67,750	21,251	21,251	153		地域間幹線
	阿寒本町線（大楽毛経由）	14,573	4,251			10,322		市単独
	釧路標津線	7,782	5,547			483	1,752	市単独
	布伏内線（デマンド交通）	4,000	170	1,915		1,915		地域内フィーダー
	小計	907,888	694,504	65,822	65,963	84,742	45,720	
	合計	998,349	741,624	78,745	66,489	114,634	45,720	

新富士新野線
豊美線 削除

変 更 前

1) 路線再編による事業の効果

事業内容	事業の効果
STEP1 イオン鶴野線の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図ることにより、立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 路線延長が約 14.3 km から 6.3 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
イオンリフレ線（鶴野経由）の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図ることにより、立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 路線延長が約 24.1 km から約 16.7 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
イオンリフレ線（大楽毛経由）の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図ることにより、立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 路線延長が約 33.8 km から約 26.4 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
イオン高専線の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図り立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 一部ルート変更の入り JR 根室線の南側地域の公共交通不便地区の改善を図る。 - 路線延長が約 17.4 km から約 10.5 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
白糖線（系統2）の一部経路変更	- 釧路地域と音別地域を結ぶ幹線路線として、音別駅構内へ乗り入れ、音別線（市町村有償旅客運送）と接続し、地域の利便性を高める。 ※令和6年10月1日からは、白糖線（系統2）を廃止し、白糖線の増便及び白音線の新設
昭和線（阿寒バス）の一部経路変更	STEP1 の幹線系路線として、支線系路線との乗り換え利便性を高めるため、再編時間帯は全ての路線をイオン昭和店経由とし、運行本数を増便する。

変 更 後

(180頁)

1) 路線再編による事業の効果

事業内容	事業の効果
STEP1 イオン鶴野線の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図ることにより、立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 路線延長が約 14.3 km から 6.3 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
イオンリフレ線（鶴野経由）の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図ることにより、立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 路線延長が約 24.1 km から約 16.7 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
イオンリフレ線（大楽毛経由）の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図ることにより、立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 路線延長が約 33.8 km から約 26.4 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
イオン高専線の支線化	- イオン昭和店を乗換拠点として支線化を図り立地適正化計画の拠点の都市機能の強化を図る。 - 一部ルート変更の入り JR 根室線の南側地域の公共交通不便地区の改善を図る。 - 路線延長が約 17.4 km から約 10.5 km に短縮され、定時性が確保しやすくなるとともに、事業収支が改善される。
白糖線（系統2）の一部経路変更	- 釧路地域と音別地域を結ぶ幹線路線として、音別駅構内へ乗り入れ、音別線（市町村有償旅客運送）と接続し、地域の利便性を高める。 ※令和6年10月1日からは、白糖線（系統2）を廃止し、白糖線の増便及び白音線の新設 ※令和7年10月1日からは、白音線を廃止し、代替路線として音別地区コミュニティバスを白糖駅まで延長
昭和線（阿寒バス）の一部経路変更	STEP1 の幹線系路線として、支線系路線との乗り換え利便性を高めるため、再編時間帯は全ての路線をイオン昭和店経由とし、運行本数を増便する。